

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 6年 9月 10日

事業所名 放課後等デイサービスあつぷる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		4倍以上の面積を有している。	41.2㎡の基準に対して189.72㎡確保している。
	2	職員の配置数は適切である	5		基準より2名多い。	児発管専従1名、児童指導員・保育士2名の基準に対して4名配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5		床のバリアフリー化、手すりの設置をしている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		全職員が参加している。	毎月行われる職員会議で行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		年2回の放課後等デイサービス評価のほか保護者モニタリング及び保護者面談を年2回以上行い、保護者様の意向を反映させるようにしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		保護者様には結果を配布し、他にホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1		外部評価を行うようにしたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		毎月1回以上の研修を受講している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		年2回のアンケート調査のほかモニタリング及び保護者面談を年2回以上行い、また、連絡帳などで保護者様の意向を反映させるようにしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		0歳児検診のフォローアップ検査を受けていただいている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		全職員が参加している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		年間169個のプログラムを1週間ごとに変更している他、子ども会議で提案されたものをプログラムに取り入れ、その他に季節の行事も取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		それぞれ利用時間に合わせてプログラムを設定している他、その日の利用児童の状況で柔軟に対応して支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		体調や心のケアを優先している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		朝礼で必ず確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		送迎前に一度その日の出来事などを共有する時間を設けている他、支援終了後に改めて話しやすい雰囲気づくりをして振り返りを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		毎日全員ケース記録を付け、支援の検証・改善に役立てている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		年2回のアンケート調査のほか保護者面談を年2回以上行い、保護者様の意向を反映させるようにしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5		全てを行っている。		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		児発管に加え保育士も参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		それぞれの学校に合わせて行っている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		5		受け入れる場合はそのようにしたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5		担当者会議を行うなどしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	4		そのような場合は対応したい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		研修には積極的に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	近所の公園を利用している。	事業所利用の前後に児童館や児童センターを利用できるよう提案している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		連絡帳のほか緊急時は電話で対応している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1		ペアレントトレーニングは行っていないが、ペアトレに即した助言をしている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		分かりやすい言葉でお伝えしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		保護者様に寄り添って行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		要請があれば行いたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5		その日のうちに対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		毎月お便りを配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	5		鍵のかかる場所に保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		分かりやすい言葉でお伝えしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		これから行いたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5		事務室と玄関に置いている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		毎月避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		年2回以上の研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5		静養室の利用について計画に記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		学校に提出するものと同じものを頂いて対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		ファイルに綴じていつでも見られる場所に置いている。	